

足立区議会議員 伊藤 のぶゆき 様

足立区議会議員 43番 渡辺 ひであき 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

| 行政区分            | 質問の要旨  |
|-----------------|--|
| <p>1 政策経営行政</p> | <p><b>1 今後の自治体行政について</b></p> <p>令和5年に執行された「足立区議会議員選挙」で負託を受けた私たちの任期もあと一年を切った。この間、コロナ禍以降から、これまでの行政の形は明らかに大きな転換点を迎えている。日常的にAIを使うようになった今では、その活用によどのような決断ができるかが行政組織に重くのしかかってくる。それは、私ども足立区議会議員も同様にチェック機能を果たすために責任は層倍のものとなる。自覚しなければならない。</p> <p>そして、その結果は僅かな時間で相当の自治体間格差となって現れることが容易に想像できる。難しい時代を迎えたと誰もが思っている。では、こうした時にAI活用に必要な決断とは何か、まず問いたい。</p> <p>(1) これまでもAI活用についていくつかの報告があったが、その時系列について答弁を求める。</p> <p>(2) AIを使つての答弁作成についても報告があった。その検証はどの役職レベルで行っているのか。責任の所在についても答弁を求める。</p> <p>(3) 以前からAIについては、最適化を求められているために活用されるべきと指摘をしてきた。では、例えば、足立区基本計画をAIに読み込ませた場合に齟齬を指摘された際、どのように対応するのか答弁を求める。</p> <p>次に、今後の自治体行政について多角的に質問したい。今後、自治体は単なる「住民サービス提供機関」から、地域そのものを維持、再設計する「地域経営体」へ変化していかなければならない。もれなく、少子高齢化・人口減少・財政制約・災害リスク・DX化が同時進行し</p> |
|                 | <p>6月16日 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">午前</span>・午後 8時30分受付 質問時間 20分</p>  |

## 行政区分

## 質問の要旨

なければならない。この認識に異論を唱える方はいないと思う。

従って、これからは、本当に必要な公共サービスの選択、インフラ統廃合、公共施設の集約、民間とのコラボレーションなどが、余儀なくされていかねばならない。

(4) 私は、この任期のなかで「公共」を枕詞に多くの質問や指摘を行ってきた。それは、何度も繰り返しになるが、今掲げた項目を中心とした行政運営を行っていく中で、足立区の持ち得る全ての公共財を納税の対価として実感していただくことが第一義に議論され実行されることを目指さなければならないと思いつけてきたからである。

以前の自治体運営のあり方に「協働」が使われ、その後「協創」となり、今日では「ウェルビーイング」となった。根本の理念は大きく変わっていないと思う。自治体がより地域や、民間との協力を推し進めなければ成り立たないのである。そして、社会構造、人口構造の変化でより顕著になったことがある。人々が住んでいる街に滞在する時間が圧倒的に長くなるということだ。勿論、就労年齢も上がっており社会の就労需要も格段に上がっているが、これは紛れもない事実だ。街の中での時間が増える背景は、高齢者だけの世帯や単身高齢者が増加したことによる。このことは基本計画審議会でも、今後の近い社会問題として議論があった。このことについては、より深い調査と議論が必要であるが、答弁を求める。

2 地域のちから  
推進行政

(5) 次に、以前も指摘したように、生活スタイルの変化によって遠方への外出より徒歩圏内の近所での買い物や活動が増加していることが挙げられる。だからこそ「地域社会」の再構築は待ったなしである。つまり、このような生活をされている方々を地域に取り込む最大で最後のチャンスと思うくらいの意気込みで臨むべきである。そうした方々に地域や行政の情報が伝われば意識に変化が生じるのではないだろうか。答弁を求める。

(6) 一方、町会・自治会加入率は減少の一途をたどり続けている。当たり前だが、私たちも行政も手をこまねいているばかりではなく、議会として議員としてその活動の中で様々な議論を通じて行政側とやり取りを行い、限られた予算の中でそれらを防ぐ方策を形にしてきた。しかし、追いついていかないとの焦りを感じるが、答弁を求める。

これまで現状を記してみたが、今後の課題解決の大きな括りは解決への議論が進んでいると思う。何をなすべきかは、明白な事実だからである。一方、今後の行政需要はあまりにも個別対応が望まれること

## 行政区分

## 質問の要旨

になる。地域という括りに含むことができない方々である。堂々巡りのような表現になっているかもしれないが、避けて通れない紛れもない事実だ。

さて、質問を吟味しながら整理をしてみたい。

(7) 個別対応が余儀なくされると問うた。想定される行政需要とは何があるか、答弁を求める。

(8) 特に介護や認知症など見守りサービスの充実やネットワーク化が必要だと考える。オンデマンドと最適化への方策をそれこそAIと共に導くことが最良となるのではないか。答弁を求める。そして、地域の力をどのように喚起するべきかが大きな課題と考えるが、答弁を求める。

今の質問から手前で為すべき施策を講じる必要を述べたい。今後どのような生活の形への助けがなされるべきであろうか、エネルギーを尺度に挙げれば、国は様々な支援を講じて数年が経った。一方、この施策に対する効果などについての議論には枚挙のいとまがないくらい意見がある。世帯で賄えない部分の補い方さえも議論されるべき時代を迎えたと申し上げる。だからこそ公共財はフル活用していただきたい。そこで質問する。

(9) 従って、住区センターなど、気軽に立ち寄れる公共施設の立ち位置がより重要になり、また、その活用を改めて考え直さなければならない。今、日常的に居場所となっている方の満足度はとても高い。一方、今後地域回帰される方は、二の足を踏む可能性が高い施設と容易に想像できる。この分岐点をどのように捉えて個別に寄り添うことができるか、また、その手法に腐心しなければならないと考えるが、答弁を求める。

(10) つまり、あらゆる公共施設（足立区だけでなく、東京都のもの、国のものでも）を総動員して「ウェルビーイング」を目指せる自治体が浸透すれば、健康寿命が伸びフレイル予防となり、先ほども述べた個別対応が減少していくと考える（もっと細かい指摘があるが時間の制約があるので）が、答弁を求める。

次に、地域社会の再構築について質問する。これは私たちが知っていても、足立区民の皆さまがご存じないことが多くあるので行うものがあることを是非とも理解して答弁をしてほしい。

## 行政区分

## 質問の要旨

(11) まず現状認識として、コロナ禍以前と現在の町会・自治会加入率の変化と加入促進について、つまびらかにされたい。これまで何度も多くの議員から指摘があつて恐縮だが、都度なすべき項目と考える。答弁を求める。

(12) コロナ禍収束後、公共施設で行われてきた地域や趣味、スポーツなどのクラブ活動は、どの程度回復しているのか答弁を求める。また、それらに対する足立区の支援の形について答弁を求める。

(13) 今年から町会・自治会行事への支援が行われる。この事業は、浸透すれば地域コミュニティ再構築に大きな効果が見込まれる。申請がある町会等には区民事務所外の部署も協力していくべきである。そうした構えがあるかを含めて、そのスキームについて答弁を求める。

(14) そんな中、盆踊りの復活と中止の情報が耳に届くようになった。複数の町会の連携で開催可能との意見も伺う。足立区の受け止めについて答弁を求める。

(15) さて、議論が戻るが、では足立区は町会・自治会の形は何が理想と考えているのか。勿論、地域性やこれまでの歴史など一括りでは表現できないのは承知をしているが、目標なしに施策は決められない。そして、今後より一層、地域、町会・自治会、マンション自治会との綿密な連携が不可欠なのである。それには担い手が最も重要で、このことが解決できればほぼ問題解決となることは皆が思っている。では、担い手不足の解消はどうすれば前進するかについて、それこそAIに問うても分かりやすい表現はない。そこで考えあぐねたが、出来うことは手厚い地域支援に他ならないとの考えに帰着する。こちらに舵を切る以外、方法がないと考えるが、答弁を求める。

しかしながら、不可逆的に地元千住地域の課題を敢えて質問したい。これには思いや現実があるがご理解を賜りたい。理由はそもそも、この地域も下町特有の街のあり方がベースで地域コミュニティが醸成されてきた事実があるが、地域の魅力が内外に評価されて、今日私たちの想像を超えた街の変化がある。それは、この地域が巨大な人気ターミナルとなった「北千住駅」を抱えていることに起因している。以前からマンションも林立しているが町会・自治会加入率は依然として高い。このことはこれまでも指摘をし続けており、行政側の認識も稀有な地域と考えられてきたと思う。

それでも昨今は、地域の担い手不足の懸念が大きくなっている。この状況に行政が深く関わらなければならない。問題となる案件が顕在化してきているのである。そして、そのことを解決するための行政資

行政区分

質問の要旨

源が乏しい。今後この地域で足立区が土地を購入することは、地価の高騰や地域事情を鑑みて、余程のことがない限りできないだろう。しかし、地域コミュニティ再構築のモデルの素地は歴史的に残っていると思うのである。だからこそ、危機的状況乗り越えて地域コミュニティを維持することに全力で取り組みたい。そこで質問する。

(16) 昨年、千住宿400年記念事業が多く行われたが、私はこれから千住宿500年に向けてカウントアップしていくべきと考える。地域の絆の支えは歴史や文化伝統の継承の先にあることは論を待たない。そうした継続の誇りになる歴史が地域コミュニティの核となると考える。私は、千住宿開宿500年事業に関われないが、行政が関わった千住宿400年事業の継承は、地域の歴史、文化伝統の継続と魅力の発信とならなくてはならない。この経験は、どんなことがあっても子細に残していかなければならない。その責任を痛感する。

だからこそ、今年郷土博物館に設置された千住四丁目の「静御前」の歴史的価値を強く訴えたのである。なぜならば、あれらの歴史的文化財は組立と解体をし続けなければ、その存在が失われてしまう危険があるからである。それは宮大工の継承と同じくしている。今回の組み立ての現場を目の当たりにして、その重要性と危険性を同時に感じた。この事例は相当の意味を持つと思った。これらこそ、歴史を背景とした地域の絆の象徴的事例ではないだろうか。答弁を求める。

(17) 更に、であるからこそ、マンション自治会との連携にもっと行政が関与すべきと考える。新しく足立区に住むと決める方の選択がどこにあるのか、地域にどう関わっていただけるかは初動で決まると言っても過言ではない。不動産物件の評価だけで新しく住む形を決められるとは思わない。地域との関わり方は、物件購入若しくは賃貸契約時に全てが決まるものではないはずである。自治体や地域の情報を常に得ていただく環境が求められる。どのようにすべきか答弁を求める。

(18) 趣が大きく変わるが、このような指摘や質問を多くの東京23区の議員がなしていることと思う。しかし、地方議員の成り手不足が私たちの間で話題に上る。言葉を選ばなければ、世間的にその立場があまりにも不安定だからだと思う。報酬や身分保障についても私たち側では議論があるが、世情を鑑みて大きな声を上げにくい。

でも、しかし政治は（地方議員なのであまり大きく政治と申し上げたくはないとの前提で）好むと好まずとに関わらず、生活の重大な決定がなされているのである。従って、有権者の皆さまの思いは逃げず

## 行政区分

## 質問の要旨

## 3 危機管理行政

に受け止める覚悟を持っていることは、どうかご理解賜りたい。それくらいの思いで、この足立区議会議員全てが仕事をさせていただいている。その理由は、足立区が好きで地域コミュニティを大切だと思っからだと思っ。私たちが取り組むべき課題は、日々の活動の中で地域に教えられることが殆どと言っていい。そして、それぞれの議員はその地域に住まわっているから、より深くその地域を知ることになる。そして、その地域に少しでも貢献したいと思っるのである。

人々の生活とは、その地域がどんなに変わろうが形に大きな差異はないはずである。生意気を申し上げたが本音である。行政側の思いを問う。答弁を求める。

これらを踏まえて、さて、次の整理は災害対策となる。地域の絆が脆弱となった歴史的背景に、戦後の配給制度の伝承を知る人がほぼいなくなったと言っを伺い啞然となった。つまり、地域の絆、地域コミュニティは、災害時の記憶と事実によって大切にされていたものが、今日ではその意味や悲惨さが伝わっていないとの意見である。

足立区でも戦時中の疎開の史実が、毎年関係者の方々の努力で伝えられている。私も従来、関係者の方々に話を伺った。父や祖父母から聞いた話もちろん覚えている。その生々しさはなかなか表現しづら。そうした経験のもと、私はこれまでの災害対策関連の指摘や意見具申は、阪神・淡路大震災後、質問や指摘を活動の中で強調してきた。しかし、人は忘れるのである。

そんな中、「東日本大震災」が起こり、自治体としての備えや責務を改めて痛感した。しかし、それらをこの場で全て述べることはできないが、仲間の理解があり十数年にわたり「災害・オウム対策調査特別委員会」に所属させていただいた経験が、より行政に反映されたい思いを発言してきた。その時間の中で、多くの課題を足立区職員の方々と埋めてきたとの自負はあるが、そもそも私たちの災害に対する備えは足り得ない。足立区民の皆さまにお伝えすべき最も重要なことは、このことに他ならない。

(19) 災害対策の充足など自治体単体で出来うるはずがない。言い換えれば、災害時、避難所にたどり着ければどうにかなると考えている方がほとんどだと思っが、現実全く違っくと区民の皆さまに伝える覚悟を問いたい。何故ならば、足立区の避難所の受入可能人数は15万人程度しかないからである。そのことは足立区に限ったことではなく他の自治体も全く同様で、避難所で全てが完結できないのである。し

## 行政区分

## 質問の要旨

かし、避難所での対策がマスクミを通じてクローズアップされすぎていると私は思う。現在、足立区の人口は優に70万人を超えた。このことを知っていただくことで、足立区民の皆さまに自主的な命の守り方を考えていただく行政の姿勢が必要ではないかと考える。このことについては何度も指摘をしてきたが改善が見られない。真剣な答弁を求める。

(20) 背景には、組織の在り方が議論された令和8年第1回臨時会の顛末に如実に表れている。一般質問で先例があるか存じ上げないが、でき得れば区長の答弁を求める。

(21) 次に、これまで何度も申し上げてきた質問で申し訳ないが、「熊本地震」の教訓を御船町の町長からいただいた。町長にはその教訓を足立区で講演もいただいた。その中で最も心に残ったことは、議員が一番のクレーマーだったということ、でもしかし、議員の情報が最も確度が高かったという点である。その教訓を足立区はどのように捉え活かす考えがあるか、答弁を求める。

ここまで、今後の自治体運営について振り返りと整理に基づいて考えを述べてきた。共感される方が一人でもおられるとありがたい。私たち議員はどんなに主張が正しかろうが、当選しなければ議事録に残る仕事をできない。しかし、その仕事をなしても世間の評価は厳しいと思う。従って前述したように、議員の成り手不足はより顕著になると思う。議会の必要性は経験したものでしか理解されないのだろうとさえ思う。誠に悔しい。そうした愚痴も述べておきたい。

最後に、足立区に従事されている職員の皆さまに申し上げたい。日々仕事されていることに心からの敬意と感謝を申し上げる。公務員を目指して合格され就職されたときの喜びを忘れずに仕事をしていただきたい。でも、現実当初の思いと違うという方がどれだけいるのだろうと思う。でもそれはどんな仕事に就いても乗り越えなくてはならない。私の場合、選挙に立候補して32年が経過した。7回当選させていただいたが、あと一年未満でこの任期は終わる。この経験を一人でも多くの方々にお伝えして、いずれ継承してほしいという年齢になった。関係者の皆さまには、私たちの足立区をより良い自治体へと昇華してほしいと思う。足立区はそれぞれの地域に魅力がある。これからも住んで良かった、住み続けたいと思っただけの自治体だと思ふ。そのことを申し上げて、質問を終わる。